

ICT ERA + ABC 2012 東北

NECの復興支援への取り組み

2012年10月20日

**NEC 復興支援推進室
統括部長(仙台駐在)
影山 達哉**

これまでのNECの取り組み

震災直後のNECの取り組み

社会インフラ／通信インフラの復旧

- 関係省庁、通信事業者等に協力し、インフラ復旧を支援
 - ・仙台空港再開支援、固定・無線通信網の復旧支援
 - ・超高速インターネット衛星「きずな」による災害情報共有環境の整備等

ITシステムやクラウドサービス

- 被災者や復興支援活動のためにITシステム／サービスを特別提供
 - ・「Explanner for SaaS(会計)」無償提供
 - ・BIGLOBEクラウドホスティング無償提供
 - ・NTT東日本の避難所向け
ブロードバンド接続サービスほかに
パソコンを合計百台規模で提供
 - ・パーソナル製品の特別保守サービス
 - ・法人向け特別保守サービス
 - ・自治体や、スーパー・金融機関店舗の復旧対応



避難所に設置された
当社アンドロイド端末
「LifeTouch」

CSR・社会貢献活動

震災復興支援活動 NEC“TOMONI”プロジェクト

グループ社員による復旧・復興ボランティア活動

- 岩手県陸前高田市（2011年7月：ボランティア、2012年7月：動く七夕）
- 宮城県南三陸町（2011年9月～毎月復興市、ボランティア）
- 宮城県石巻市、七ヶ浜町 等

復興応援イベント

- チャリティコンサート @仙台（仙台フィルハーモニー管弦楽団）
- 「NEC難病コミュニケーション支援プログラム」開催



イベントを通じた復興応援

- 被災地での各種スポーツ教室開催
いわき市・石巻市(ラグビー教室)、 国見町・南三陸町(バレーボール教室)
- NEC将棋教室 in 亶理町(2012年7月瀬川4段)

南三陸町での活動状況



がれき撤去(戸倉地区)
(2011年12月1月、2月、3月)

南三陸復興市(志津川地区)
(2012年4月～毎月参加)



復興応援イベントの実施

NECバレーボール教室(南三陸町)



NECラグビー教室(石巻市)

NEC将棋教室(亶理町)



**瀬川プロ棋士の講演
(NEC所属)**

復興応援グッズ

復興支援を後押しする木製のしおり（2012年8月作成）



南三陸復興タコ会
制作:Yes工房
旧入谷小学校校舎を
利用した工房



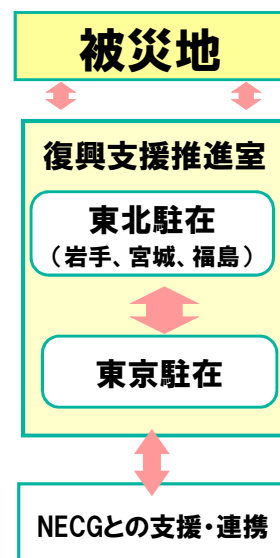
当社お客様向けの
ノベルティとして
好評配布中！

復興支援推進室の設置(2011年11月)

設置目的

- ・被災地の復興支援
- ・復興関連事業の推進

- 被災者の視点に立ったICTを活用した復興支援
- 復興計画／まちづくり計画でのICTによる貢献
- 実証した新たなソリューション・技術の全国展開とグローバル展開
- 産官学連携による新事業創出



復興のまちづくりに向けて 当社の視点

Page 9

新しいまちづくり 4つの視点

■ 東北の地域特性を考え、新しいまちづくりをご提案中

本日のご紹介



Page 10

© NEC Corporation 2012

Empowered by Innovation

NEC

新・産業復興プラン 農業ICTの事例

1. 6次産業化に向けた農業クラウド(営農支援サービス)

農業クラウドによる「農業の生産現場の見える化」を実現

- ・ 圃場単位に農産物の生産工程が見える化
- ・ 農薬、肥料の使用基準間違いを未然に防止
- ・ 適正栽培基準に基づき作業計画と作業実績を管理
- ・ 年々、データ蓄積が進むことで、栽培精度も向上

先端施設運営委託先の農業生産法人のGRA山寺農場
当社アンドロイド端末「LifeTouch」を活用



山元町に建設された農林水産省先端農業研究事業施設

2. NEC 最新テレスカウター（TV東京：モーニングサテライト7月5日放映）

農業の現場では高齢化が深刻、若者へのノウハウ継承が急務

最新テレスカウター（メガネ型ディスプレイ + ウェアラブル端末）
の無線環境を活用し現場作業を遠隔から支援する。

1 製造・保守・物流の現場では、すでに実績多数⇒農業分野では初の試み

2 離れた場所のベテラン作業者とリアルタイムでやりとり⇒巧みの技の伝承

3 作業の指導を受けながら、ノウハウを簡単に習得⇒若手就労の増



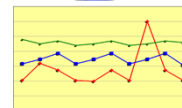
3. 塩害農地の土壌モニタリングシステム（亶理町、陸前高田市 他に納入）

塩害土壌改良材と各種センサーネットワークを活用して
震災により塩害を受けた農地の復興を支援



モバイルネットワーク

農業ICTクラウドサーバ



農地センシングデータ

- ・日照量
- ・土壌塩分
- ・土中温度

環境データ

- ・温度・湿度
- ・風向・風速
- ・降水量



まちづくりコミュニティ形成支援システム

亶理町実証テストのご紹介

(2012年3月～)

Page 15

亶理町について

亶理町人口

- ・34,234人(平成24年1月31日現在)

被災状況

- ・5,600棟超の住宅が全半壊及び一部損壊
- ・公共施設や道路・堤防などの公共インフラ、農水産業施設など
- 3,353億円を超える被害額

【仮設住宅】

- ・5ヶ所に分散し計1,126戸数
- そのひとつ宮前地区の仮設住宅団地
- 85世帯で実証テストを実施



亶理町の名物は？

- 「仙台イチゴ」【東北出荷量第一位】
- 「はらこ飯」【郷土料理100選出】

Page 16

© NEC Corporation 2012

Empowered by Innovation

NEC

仮設住宅団地の現状

仮設住宅は、様々な集落から集まった人たちで構成

* 地域によっては集落ごと仮設住宅に移転したところもあり、そこではコミュニティは保たれています。

- 近隣住民同士のコミュニティは希薄
回覧板がスムーズに回っていかない。
- 自治体、自治会からの重要な情報も
住民の皆さんに確実に伝わらない。
- 住民同士のつながりが薄いために、引きこもりがちの高齢者が
出てくるなど、孤立が進んでいる



新たなコミュニティの形成を促進するための取り組みが必要

- ICTによるコミュニティ形成支援の仕組みを検討
- 誰でも簡単に高齢者にも使いやすいこと

まちづくりコミュニティ形成を支援するための提案

新提案 現在のテレビを活用したサービス

各世帯の地デジTVを「情報端末」としてそのまま利用

- ・住宅の全ての世帯に「地デジTV」が既に設置。
- ・テレビであれば、高齢者でも子供でも誰でも手軽に利用可能。
「住民全員が気軽に扱える」

家庭用ビデオカメラで製作したコンテンツを自主配信

- ・コミュニティ形成の当初は、住民同士が自己紹介するなど、
お互いが知り合うための仕組みを提供
- ・操作が簡単な「家庭用ビデオカメラ」を映像制作に活用

住民が気軽に参加できる「お近所TV」です。

基本ユニット

①送信ユニット ②パソコン ③ビデオカメラ ④USBメモリ

家庭には設置機器は不要、手持ちのリモコンで操作可能



- ・ 既設の有線(同軸ケーブル)で送信可能。
- ・ アンテナを取り付けることで、ワンセグ/フルセグで活用可能。
- ・ 本装置を複数台組み合わせて使用すれば、複数チャンネルで使用することも可能。



送信ユニット(15cm×6cm×3cm)手のひらサイズ

- ・ 最新技術のプログラマブルLSIを採用
- ・ 高集積、高密度、高速処理を実現した。

②送信装置は、一般家庭に置くのではなく公共施設、集会場等に設置するものです。

© NEC Corporation 2012

Empowered by Innovation

NEC

亘理町での実証テストの概要



CEATEC2012のテーマステージビデオ(1分)

2012年

立ち上げ準備

1月 設置工事
2月 東北総合通信局届出
3月 本格実証テスト 開始

本運用

6月 宮前チャンネル協議会発足
毎月1回開催、運営、コンテンツなど協議
亘理町職員、仮設住宅集会場臨時職員
コミュニティFM局、NECグループ、他

「宮前チャンネル」 撮影から配信まで、運用は簡単です。

① 臨時職員によるコンテンツ撮影



② パソコンでコンテンツ編集・変換



コンテンツ企画、運営、システム
毎月開催の宮前チャンネル協議会で支援

④ 各戸のテレビで視聴



③ 番組の入ったUSBメモリを送信機に接続、配信開始



宮前チャンネルの導入効果

ご近所同士のコミュニティ形成に効果

- 外に出るきっかけを得た。など番組をきっかけに集会場に出かけ易くなった。
- 知り合う機会が増加した。
- 近所同士で共通の話題を持ち易くなり、会話が活発になった。

自分が所属する地域コミュニティへの愛着増大

- 番組を通じて自らのコミュニティを常に意識
- 昼間は仕事に出ている人々と地域を繋ぐ

新しい幸せ／満足感、生活の“張り”を創出

- 自らがテレビに出ることが生活の張りになった。お化粧をしなきゃ！
- 新しい活躍の場を創出。次は自分がキャスターをやってみたい！

マスコミや全国からの反響

■ マスコミの報道

2012年 3月 NEC広報発表 新聞各紙で記事掲載

3月 NHK 東北「てれまさむね」6分

NHK 全国放送「おはよう日本」6分

6月 河北新報にて紹介記事掲載

6月 総務省情報通信審議会地上デジタル放送推進に関する検討委員会

東京大学、近藤則子氏(老テク研究会事務局長)が地上波デジタル移行による有効活用例として紹介された。

■ 被災地以外からも高い関心

- ・地域の商店街活性化への活用
- ・高齢者住宅での見守り、孤独防止

地域コミュニティ形成の課題とは

■ 東北被災地の課題は日本社会の縮図である。

- 地域コミュニティ形成の課題もそのひとつ

東北被災地の問題解決、そして全国への展開

1. 少子高齢化や過疎化の急速な進展
2. 各地域で地域コミュニティの崩壊
3. 高齢者の孤立化や見守り支援が社会問題

(まとめ)

亘理町:仮設住宅での実証テストを通じ、少子高齢化社会における地域の絆を再生し、安心して暮らせる新たな地域コミュニティを形成するため、皆さんとご一緒に進めていきたいと思っています。

NEC 復興支援推進室

TOMONI（ともに）前へ！

TOMONI（ともに）未来へ！

私たちNECグループは一丸となって、
技術、知恵、力を総動員し、
被災地復興に全力で取り組みます



Empowered by Innovation

NEC